

# 支那の文化

題字/北出不二雄

発行  
NPO法人 さろんど九谷  
〒922-0861  
石川県加賀市大聖寺地方町1-10-13  
石川県九谷焼美術館内友の会事務局  
TEL・FAX 0761-72-6366  
<http://www.salon-de-kutani.jp>  
発行人 / 古田 章子

石川県九谷焼美術館友の会会報「ふかむらさき」

2024.10.1 第41号

## 「推し九谷」

高校生以下対象のイベント「推し九谷」。  
子どもたちが常設展示の3つの部屋にある作品、  
または加賀市九谷焼デジタル収蔵庫から  
お気に入りの1つを見つけて自分だけの  
オリジナルの作品名を命名しました。

令和6年度の「推し九谷」を募集しています

●募集期間：～12月15日(日)まで

### 令和5年度審査結果



釣りに夢中になっていていつのまにかタぐれになっているところをそうぞうしたから。

「推し」

古九谷 色絵柳下釣人物文皿

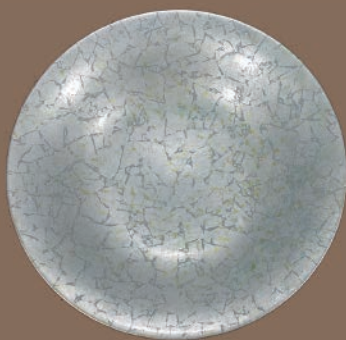
「光陰矢の如し」

命名者 りゅうせい(中3)

二推し 嵐一夫 釉裏金彩耀変文大皿「祈り」

# 「星夜一縷」

命名者 あいな(中2)



「星夜一縷」は、2つの意味があり、1つは「願いをわずかに思い続けること」2つ目は「消えそうな想いを星にたくすこと」です。この皿は、夜空の星のような色で、「星に祈りを込める」からこの名前にしました。

二推し 古九谷 色絵樹下美人図輪花中皿

# 「恋は嬉しいだけじゃなくて切なくなったりもするね。」

命名者 美恋恋 莓(びれんれんいち)(中2)

二推し 相上芳景 鳥に楓図平鉢

# 「野山の錦にたたずむ赤燐の鳥」

くたにん(高1)



まずこの作品を見た瞬間、鳥というよりも寂しさというものを感じた。そこで、たたずむという言葉を使った。そして次に、紅葉の色とりどりさに他の表現を考えたときに、皿の裏を見ると、紅葉が舞い散っているのを見た。ここでまた寂しさというのを感じた。秋から冬へと移り変わる季節を皿によって感じさせるのは、とても良い作品だと思った。次に感じたのは、赤い鳥である。何故、鳥と赤を別にさせたかという、この作品の鳥と赤は、もう切っては切り離せない関係になっているのを感じたからだ。この赤には、ただの赤を感じさせない色のセンスがある。だから、この赤を赤燐と読んだ。縁を観察すると、花が描かれているのを見た、ここでもまた季節の移り変わりを感じた。枝にも細かい作業があり、とても工夫がされているので、この作品を選んだ。

二推し 古九谷 色絵竹燕雷文繫捻輪花皿

# 「しあわせ」

命名者 さわこ(中2)

二推し 北出不二雄 藍地青彩千字文壺

# 「青深沈」



赤い龍で強そうだから。この世界を守ろうとしているが、その見た目のせいでみんなに恐れられている可哀想な一匹の龍。その龍は正義感が強く勇敢であるが、怒ると角を長く伸ばして暴走してしまう。ここに描かれているのは人間を襲った荒波にこの龍が怒って天から降りてきて暴れている、そんな場面を想像して命名しました。この後龍は暴走を抑えきれず人間にまで害を与えてしまう。悲しい龍を想像しました。

「荒波に浮遊する赤龍の王」

三推し

竹内吟秋 赤絵金彩龍図花瓶

命名者 クタコ(中2)



恋の暗い感じが絵から伝わってきたから。



2人のつばめがとても仲が良さうでしあわせそうに見えるから

三推し

古九谷色絵幾何学文皿

「森林」

命名者 ゆーせー(中3)



緑があり、赤があり、葉がおき、あおざめたり、そういう要素がある。緑の中のもようが木のようにも見える。



命名者 かな(中3)

青色で深いところに沈んでそうだから。青色で統一している感じが好き。

三推し

松山窯 鶴丸文大香炉

「化粧鶴」

命名者 アッキー(中3)



鶴の視線が自分の翼や体に行っている様子が、人間が外見を気にしているしぐさみたいに見えたから。また、鶴を中央に配置していることや周りを上品な植物で囲っていることからこのように考えられたから。

## ご挨拶

石川県九谷焼美術館館長 村瀬 博春

このたび、石川県九谷焼美術館の館長職を委嘱いただきましたこと、とても光栄に思います。この美術館には特別の感慨があります。館の名称に「石川県」とありますように、施設の用地選定、設計、建設は県が行いました。私は1996年度から99年度まで、「行政の文化化」を掲げた県の方針で、石川県立美術館学芸員の職分のまま、石川県文化振興課に配属されました。音楽堂を始めとする県内文化施設の整備も担当し、こちらは当初「加賀陶芸美術館」として基本構想の段階から関わり、定期的に加賀市役所にも足を運びました。現職の学芸員の立場から、施設の使い勝手についても設計者の富田玲子さんに進言し、トラックヤードからの動線や資料室・研究室の設置などに配慮をいただきました。

そして九谷への思いです。私の両親の実家が山中町だったことから、「川行き」は夏休みの恒例行事でした。九谷のバス停が見えると、いよいよ目的地が近いと心が躍ったものでした。また、九谷古窯で発掘調査が始められたことも記憶の片隅にあります。川行きとともに家の恒例行事だったのは、展示会の鑑賞でした。1970年の夏、大阪万博が開催されましたが、その帰りに京都で鑑賞した「スペイン美術展」には大きな衝撃を受けました。グレコ、ヴェラスケス、ムリーリョ、スルバラン、ゴヤの名画が展示されていたのですが、なぜか親近感を覚えました。その翌年、イギリスのBBCが制作したCivilizationが吹き替えられ、「芸術と文明」とのタイトルでNHKが放映しました。芸術作品の根底にある思想に光を当てる、ナビゲーターのケネス・クラークが印象的で、将来このような職業に就きたいと思いました。

この原体験があって、石川県立美術館の学芸員になりました。常設展示されている「古九谷」と野々村仁清の「雉香炉」は、誰よりも多く手にする機会に恵まれました。その度に、この両者の強い絆を直観するとともに、古九谷の意匠には、かつて感動したスペイン美術と同じ息吹を感じました。「なぜそう感じるのか」その答えを求めて40年間苦悶しましたが、仁清が深く関与した古九谷も、歴史的に対抗宗教改革運動の所産に位置付けられるとの確証を釉薬の科学分析から得て、ようやく知解に至りました。

美術は目で楽しむものですが、その楽しみには生涯を懸けて探求する価値を持つものがあります。九谷焼もその一つです。簡単に答えが見つからない問いと何十年も苦悶することは、人工知能の及ばない人間固有の領域です。九谷焼美術館が楽しく、かつ深い思索の場として、AI時代にこそ必要な文化装置であると広く理解をいただけるように、館長として微力を尽くしてまいります。





# 行事報告フォトレポート 2024

ご協力・ご参加いただきました皆さまありがとうございました。

## 九谷桜茶会 宗徧流加賀支部 4/14



## 「はじめてのおチャカイ」 裏千家淡交会 石川南青年部 6/23

現代工芸でお茶を味わっていただくためのカフェイベント



## よるの会 演奏:piano&vocal unitタムヤス 7/6



愛でる・育てる九谷焼 7/14



ナイトコンサート 江原千絵 オーケストラアンサンブル金沢第2ヴァイオリン首席奏者 7/20



煎茶花月庵流茶会「夕顔の会」  
8/18



村瀬館長が、2022年以来イタリアの研究者と共同で進めてきた、古九谷釉薬の蛍光X線分析の結果と考察をまとめた共著論文が、9月5日表面工学に関する国際的な査読付きオープンアクセスジャーナルCoatingsに掲載されました。下記からご覧いただけます。

<https://doi.org/10.3390/coatings14091146>

## ▶今回の論文が明らかにしたこと

- ・野々村仁清の国宝「色絵雉香炉」と石川県立美術館が所蔵する古九谷の優品、そして九谷A遺跡出土の色絵陶磁片は、いずれも同一系統の青（スマルト）、緑の顔料を使用していることが判明した。
- ・これで、考古学的、科学的に古九谷は加賀で作られたことが完全に立証された。
- ・さらに、その顔料は、イエズス会が日本のセミナーオで西洋絵画を教授するために輸入したものと判明した。
- ・九谷1号窯址出土の染付陶磁片の意匠から、野々村仁清の関与が想定されていたが、今回、仁清は1637年に有田を追放された日本人キリシタン陶工と共に、古九谷プロジェクトの中心的存在だったことが判明した。
- ・「色絵雉香炉」は、仁和寺再興を記念する意味合いから1648年から1650年に制作されたと考えられ、古九谷の「布袋」、「鳳凰」も同時期と判断された。仁清は、古九谷制作に携わったことで色絵の技法に習熟していった。
- ・このような大規模なプロジェクトは、かつてキリシタン武将の高山右近を擁し、幕府に対して文化力で対抗する姿勢を鮮明に打ち出した加賀藩（三代藩主・前田利常）の知力と経済力がなければ到底実現できなかった。
- ・古九谷の様式は、色絵（五彩手）が青手（塗埋手）に先行する。それは、俵屋宗達の「風神雷神図」のように大胆に余白を取る様式から、次第に余白を埋めてゆく様式の変遷により跡づけることができる。
- ・余白を埋める方針は、量産化を見越した省力化、省コスト化の成果である。高価な青（スマルト）使用の頻度が減少してゆくこともその方針に合致する。
- ・石川県立美術館が所蔵する古九谷の優品は1648年～1655年までに制作されたと考えられる。
- ・1655年には、有田を追放され、加賀に来た陶工の一部が帰郷し、仁清も古九谷プロジェクトから離脱したと考えられる。※なお本論文では古九谷開窯1655年説は、根拠なしとして顧慮していない。
- ・有田で「古九谷様式」陶磁片が出土するのは、帰郷した陶工が試作したものと結論付けられる。しかし、仁清を欠き、また高価な顔料を使用する状況は有田で受け入れられず、早々に破綻した。



# さろんど九谷からのお知らせ

## ▶ 記念講演会「古九谷研究の最前線」

2024年10月6日(日) 14時～15時30分

講師／村瀬博春(石川県九谷焼美術館館長)

【場所】石川県九谷焼美術館2階ホール

事前申込制・参加費無料

## ▶ 記念茶会「煎茶花月菴流茶会晩秋の会」

2024年10月27日(日) 9時30分～

秋のひとつき2種類の玉露を味わい、ゆったりとした時間を過ごしませんか。

【場所】石川県九谷焼美術館2階五彩庵

【参加費】1,500円 半券提示にて美術館入館無料(当日限り)

事前申込制・全6席

## ▶ 親子で楽しむ「季のしらべとおはなし」

2024年12月1日(日) 15時～16時

演奏／加賀山 紋(民謡歌手) おはなし／山中おはなしの会

【場所】石川県九谷焼美術館2階ホール

【定員】50人

【参加費】友の会会員400円/一般500円/高校生以下無料



## ▶ 特別対談「バロックの魅力」

2024年12月8日(日) 14時～15時30分

出演／加藤 純子(チェンバロ奏者)、村瀬 博春(石川県九谷焼美術館館長)

演奏&対談(+質疑応答) バロックの魅力をチェンバロの演奏と共に。

【場所】石川県九谷焼美術館2階ホール

【参加費】友の会会員500円/一般900円/高校生以下無料

事前申込制



さろんど九谷

事前申込制のイベントお申込先：茶房古九谷 電話(0761-72-6366)

または左記QRコードより

主催：NPO法人さろんど九谷

共催：石川県九谷焼美術館

## 友の会会員を募集しています

■ 個人会員 3,000円…個人単位で入会

■ 家族会員 4,500円…家族の代表者名で入会

会員特典

- ・石川県九谷焼美術館の入館無料
- ・広報誌「ふかむらさき」郵送
- ・毎月行事案内郵送
- ・会員限定行事への参加およびその他主催行事への優先参加、会員割引など(視察研修旅行、ナイトコンサートなど)
- ・石川県立美術館コレクション展などの観覧料が団体料金